

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 読書の世界を広げよう「千年の釘にいどむ」

2 指導観

○ 本学級の児童の実態

本学級の児童は、これまでに説明文「サクラソウとトラマルハナバチ」や物語文「新しい友達」「わらぐつの中の神様」の学習を行ってきた。これらの学習の中で根拠となる叙述にサイドラインを引いたり、あらすじや要旨をまとめたりすることは経験してきている。しかし、根拠となる叙述は示すことができても、そこから自分で解釈をしたり、自分の言葉で発表したりすることができる児童は少ない。

○ 本教材の価値

本単元は、中心教材の説明文「千年の釘にいどむ」を読み取り、そこで読み取ったことをもとに読書の世界を広げ、考えを深めようとするものである。

「千年の釘にいどむ」は、四国のかじ職人・白鷹幸伯さんが、古代の釘を再現する中で説明していった当時の釘の見事さについて説明しながら、釘作りに挑む職人の心意気を描いた説明文である。

本文の文章構成は大きく三つに分けられ、「初め・中・終わり」の分かりやすい形になっている。

1 2 の形式段落からなり、意味段落では5つの意味段落に分けられる。まず、1の意味段落では、千年の釘とはどんな釘なのか、だれがなぜ千年の釘にいどむのかが述べられている。次に、「中」にあたる部分で古代の釘の見事さの三つの側面について説明しているが、それぞれの説明の間が一行空きになっているために、文章構成がとらえやすい。最後に、5の意味段落では白鷹さんが千年もつ釘づくりにいどんだ姿と意思が述べられており、白鷹さんの職人としての考え方や生き方を読み取ることができる。思春期に入ろうとするこの時期の児童にとって、仕事に熱意と誇りをもって打ち込む人物像に出会うという上でも価値がある。

文章表現上の特色としては、次のようなものが見られる。

- ・「この釘はおどろいたことに節をわらないように、ぐるりとその節をよけて曲がった。」「太い鉄でできた釘が、生き物のように節をよけたのである。」のように擬人化した表現が用いられている。
- ・意味段落5の会話文「～自分の作ったこの釘が残っていてほしいなあ。」や「この釘を見たときに」や「こいつもやりよるわい」「千年前のやつは」といった表現から、自分自身の名を残すことは考えず、自分が作った釘が残ってほしいと思って釘作りをしていることが分かる。
- ・「この職人達に負けるわけにはいかないのだ。」のように白鷹さんの思いに筆者が同化した表現がされている。

○ 自分の考えと根拠をもたせる言語活動の手だて

- (1) 現代の釘と古代の釘を比べ、書き出しを与えて「今日の学習で」を書きまとめさせる。
- (2) 白鷹さんとバット作り職人の久保田五十一さんを比べて書きまとめ、説明させる。
- (3) 模型職人の沖永考一さんと比べて発表させる。

3 単元目標

- 古代の釘の見事さを要約したり、白鷹さんが古代の釘作りにいどむ姿や会話文から白鷹さんの職人としての考え方・生き方を読み取ることができるようにする。
- 白鷹さんと他の職人とを比べて、共通する考え方や生き方を読み取ること、 「職人」に対する見方・考え方を深めることができる。
- 「千年の釘にいどむ」で読み取ったことをもとにテーマをもって本を読み、話の組み立てを考えて書いたり話したりすることができる。

4 学習計画

過程	時	主な学習活動と内容	指導上の留意点
読みのめあて	1	<p>1 単元名，リード文，題名，冒頭から単元のめあてと読みのめあてをつくる。</p> <p>(1) 単元名とリード文から，単元全体のめあてをつかむ。</p> <p>(2) 題名「千年の釘にいどむ」について話し合う。</p> <p>(3) 冒頭を読む。</p> <p>(4) 題名と冒頭から読み通しのめあてをつくる。</p> <p>— 読み通しの目 —</p> <p>①古代の釘のどんなところが見事なのだろう。</p> <p>②白鷹さんは，千年もつ釘作りにどのようにいどむのだろう。</p>	<p>○ 中心教材「千年の釘にいどむ」を読み取った後，さらに考えをふかめるための読書活動を行うことを知らせる。</p> <p>○ 「いどむ」という言葉の意味を確認し，どんな時に使うのか話し合う。</p> <p>○ 題名読みで出された疑問の答えが書いてあるかどうか確かめるという必要感をもたせて冒頭を読むようにする。</p> <p>○ 筆者がこれから「古代の釘の見事さ」について説明しようとしていることに気づかせる。</p> <p>○ 「どのようにいどむのか」については「調べることから始めた」という言葉に着目させた上で，「調べたことがいどんだといえるのか」と問うことで，冒頭では十分に書かれていないことを読み取らせる。</p>
読みのめあての答え・学習計画	2	<p>2 全文を読み，難語句の意味を理解する。</p> <p>(1) 全文を音読する。</p> <p>(2) 難語句の意味を国語辞典で調べる。</p>	
読みのめあての答え・学習計画	3	<p>3 全体の文章構成をとらえる。</p> <p>(1) 全文を「はじめ」「中」「おわり」の3つに分ける。</p> <p>(2) 「中」に書かれている，古代の釘の何が見事なのか書きまとめる。</p>	<p>○ 2・3・4のまとまりに古代の釘の見事さが，5のまとまりに白鷹さんが古代の釘作りにどのようにいどんだのかが書かれていることをとらえさせる。</p> <p>○ それぞれのまとまりの始めの言葉「次に，」「<u>形だけでなく</u>，釘のかたさにも」という言葉に着目させる。</p> <p>○ 次の時間から，それぞれのまとまりごと，に古代の釘のどんなところが見事なのかまとめていくことを知らせる。</p>
		<p>4 2の意味段落に書かれている古代の釘の見事さを読み確かめる。</p> <p>(1) 2の意味段落を音読する。</p> <p>(2) 古代の釘の見事さが書かれている一文にサイドラインを引く。</p>	

読み 確 か め	4	<p>(3) サイドラインを引いた文を發表し、話し合う。</p> <p>(4) 釘の性質について説明している二文、または三文をつないで、古代の釘の見事さを要約する。</p> <p>(5) 要約の仕方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>短くまとめる方法 二文以上えらんで、つないで一文にまとめる。</p> </div>	<p>○ 長さよりも材料の性質についての説明が長いことから、材料の見事さがより伝えたいことであることに気づくことができるようにする。</p> <p>○ プリントにマス目を用意しておき、25字以内で要約できるようにする。</p>
	5	<p>3の意味段落に書かれている古代の釘の見事さを読み確かめる。</p> <p>(1) 3の意味段落を音読する。</p> <p>(2) 古代の釘の見事さが書かれている一文にサイドラインを引く。</p> <p>(3) サイドラインを引いた文とそのわけを發表し、話し合う。</p> <p>(4) 一文の中でどこが見事だと言えるのかキーワードを話し合う。</p> <p>(5) 釘の形の見事さについて説明している一文を短くして、古代の釘の見事さを要約する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>短くまとめる方法 つなぐ言葉をけずったり、文の終わりをけずったりする。</p> </div>	<p>○ 複数の文が出された場合は、主語に着目させ、釘が主語になっていなければならないことに気づかせるようにする。</p> <p>○ 「木にぴったりくっつき」「確実に木をつなぐ」というキーワードに着目させるようにする。</p> <p>○ プリントにマス目を用意しておき、60字以内で要約できるようにする。</p>
	6	<p>4の意味段落に書かれている古代の釘の見事さを読み確かめる。</p> <p>(1) 4の意味段落を音読する。</p> <p>(2) 古代の釘の見事さが書かれている一文にサイドラインを引く。</p> <p>(3) サイドラインを引いた文とそのわけを發表し、話し合う。</p> <p>(4) 一文の中の指示語を言い換えたり、言葉を削ったりして古代の釘の見事さを要約する。</p> <p>(5) 要約した文と要約の仕方を發表する。</p> <p>(6) 要約の仕方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>短くまとめる方法 「その」「あの」「この」などはあてはまる言葉に言い換えたり、けずっても意味が通じるならけずったりする。</p> </div>	<p>○ 「現代の釘は～、古代の釘は～」という書き出しを与える。</p> <p>○ 「おどろいたことに」という言葉や「釘が～曲がった」「釘が～よけたのである」という擬人化された表現に着目させ、二文にしぼる。</p> <p>○ プリントにマス目を用意しておき、30字以内で要約できるようにする。</p>

		(7) 古代の釘と現代の釘の性質を比べ、「今日の学習で」に書きまとめる。	○ 「現代の釘は～，古代の釘は～」という書き出しを与える。
読み確かめ		7 意味段落5から白鷹さんが古代の釘作りにどのようにいどんだのか読み確かめる。 (1) 意味段落5を音読する。 (2) 白鷹さんが千年もつ釘作りにどのようにいどんだのか分かる文にサイドラインを引く。 (3) サイドラインを引いた文を発表し、もっとくわしく読み確かめるための視点をつくる。	○ したことを中心に発表すると予想されるので、会話文にも目を向けさせるようにする。
	8	書き込みの視点 ①「何本も何本も作り直した」「改良を続けた」「二万四千本もの釘を作ってきた」からどんなことが分かるか。 ②「それでも、白鷹さんはもっといい釘を作ろうとしている」の「それでも」とは何のことか。 ③会話文から白鷹さんのどんな思いが分かるか。 (4) 書き込みをする。	○ 1日に多くても35本程度しか釘を作れないことを補足説明しておく。
		(5) 書き込みをもとに話し合う。 (6) 読み方をまとめる。 (7) 話し合ったことをもとに、白鷹さんが千年もつ釘作りにどのようにいどんできたのか書きまとめる。	○ 白鷹さんが一本一本丁寧に作り直し、少しでもいいものを作ろうと何年もの時間をかけてたくさんの釘を作ってきて、今でも努力をし続けていることを読み取らせる。 ○ 会話文から白鷹さんは自分が有名になって名前を残したいのではなく、自分の作った釘は千年先までずっと残っていてほしいと思っていること、技術では負けたくない、もっと上手になりたいと思っていることを読み取らせる。 ○ 言葉を比べて読む読み方や文末表現を読む読み方をまとめる。
読みのまとめ	9	8 白鷹さんと他の職人とを比べて読むことで、共通する職人としての考え方・生き方を読み取る。 (1) 「千年の釘にいどむ」で読み取った白鷹さんの考え方・生き方を振り返り、職人に対する考えを交流する。 (2) 「千年の釘にいどむ」の中から白鷹さんの他に出てきた職人を探して発表し、「わらぐつの中の神様」の大工さんの言葉の中からも探して発表する。	○ 「宮大工」「かわら職人」「大工さん」に着目させる。 ○ 共通する考え方や生き方を探しながら範読を聞かせるようにする。

		<p>(3) バット作り職人久保田さんの資料を読む。(資料1)</p> <p>(4) 白鷹さんと久保田さんに共通している考え方や生き方を書きまとめ、説明する。</p> <p>(6) 模型作り職人沖永さんの資料と比べて、気づいたことを発表する。(資料2)</p> <p>(8) 交流して深まった考えを「今日の学習で」として書きまとめる。</p> <p>(9) 次時の学習への見通しをもつ。</p>	<p>○ 次のような共通点に着目させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人とも長い間たくさん作品を作っている。 ・ 二人とも名前を残すことはどうでもいいと思っている。 ・ 二人とも自分の作品が残ってほしいと思っている。 <p>○ 「お金とかそんなことは考えてない。」という言葉に着目させ、白鷹さんや久保田さんはどうか問うことで、共通点として付け加える。</p> <p>○ 最初に出させた職人に対する考えと比べて書きまとめさせるようにする。</p> <p>○ 「職人」や「仕事に熱意をもって取り組んでいる人」をテーマに読書していくことを確認し、本を紹介する。</p>
読み広げる	10 11 12 13	<p>9 読書会を開く。</p> <p>(1) 読書の計画を立て、読書する。</p> <p>(2) 自分の感想をまとめる。</p> <p>(3) 感想を交流する。</p>	<p>○ 「職人」や「仕事に熱意をもって取り組んでいる人」をテーマに読書計画を立てさせ、読書をさせる。</p> <p>○ テーマに関する本を並べるコーナーを教室に設置する。</p> <p>○ 読書紹介カードを準備し、感想として書きまとめさせる。</p>

6 本時の目標（8／13）

- 説明文で読み取ったことと資料とを比べて、共通点を見つけることができる。
- 「職人」に対する見方・考え方を広げることができる。
- テーマに沿った本を選び、読書することへの意欲をもつことができる。

7 本時指導の考え方

本学級の児童は、これまでに読み通しのめあて①「古代の釘のどんなところが見事なのだろうか。」では意味段落ごとに古代の釘の見事さを表す文を選び、要約して書きまとめる学習をしてきている。また、読み通しのめあて②「白鷹さんは古代の釘作りにどのようにいどんだのだろうか。」では、意味段落5の白鷹さんのしたことや会話文から、一本一本丁寧に釘を作り直し、少しでもいい釘をつくろうと何年間もかけてたくさん釘を作ってきたこと、自分が有名になって名を残すことではなく、自分が作った釘が残ってほしいと思っていること、釘作りの技術では誰にも負けたくないと思っていることなどを読み取ってきている。

本時では、「千年の釘にいどむ」で読み取った白鷹さんの職人としての考え方や生き方をもとに、バット作り職人久保田五十一さんの資料（資料①）と模型職人沖永考一さんの資料（資料②）を比べることで、「職人」としての考え方や生き方の共通点を見つけ、「職人」やに対する見方・考え方を深め、読書へとつなぐ時間である。

本時の導入にあたっては、まず、前時の学習で読み確かめた白鷹さんの職人としての考え方や生き方を振り返る。次に、「千年の釘にいどむ」の中には白鷹さんの他にも職人が出てきたことに目を向けさせ、「宮大工」「かわら職人」を教科書から探させる。さらに、5年生で学習した物語文「わらぐつの中の神様」の中に登場した大工さんも職人であることに気づかせるようにする。そして、児童に白鷹さんのような職人になりたいかどうか尋ね、その理由を発表させることで、児童の学習前の職人に対する見方・考え方を引き出すようにする。その上で、職人を続けている人がたくさんいることから、職人と呼ばれている人達はどんな考え方や生き方をしているのか考えていこうというめあてにつなげるようにする。

本時の展開にあたっては、まず「千年の釘にいどむ」で読み取ったこととバット職人久保田五十一さんの資料（資料①）を読み比べ、共通する考え方や生き方を見つけて書きまとめさせる。発表の際は、列指名で考えを出させた後、似た考えの児童に発表させるようにして、話し合いの道筋をつくるようにする。

次に、読み取った白鷹さんと久保田さんに共通する考え方・生き方と沖永考一さんの資料（資料②）とを比べて読み、共通点を発表させる。その際、沖永さんの「お金とかそんなことは考えてない。」という言葉に着目させるようにし、白鷹さんや久保田さんはどうだと思おうか問うことで、3人の共通点として付け加えるようにする。

本時の終末では、導入で発表させた職人に対する見方・考え方と変わったかどうか問い、その上で、①職人とはどんな考え方・生き方をしている人か。②職人に対して、今の自分は思うか。の2点について「今日の学習で」に書きまとめるようにする。最後に、「職人」や仕事に熱意をもって取り組んでいる人の本を紹介し、読書への意欲をもたせるようにする。

8 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点
<p>1 「千年の釘にいどむ」で読み取った白鷹さんの職人としての考え方・生き方を振り返る。</p> <p>2 「千年の釘にいどむ」の中から白鷹さんの他に出てきた職人を探して発表し、「わらぐつの中の神様」の大工さんの言葉の中からも探して発表する。</p> <p>3 自分だったら職人になりたいかどうか考え、そのわけも発表する。</p> <p>4 本時学習のめあてを確かめる。</p>	<p>○ あらかじめ板書にまとめておくようにする。</p> <p>○ 冒頭に出てきた「宮大工」「かわら職人」「大工さん」に着目させる。</p> <p>○ 学習前の児童の率直な考えを引き出し、板書に位置づける。</p>
<p>今日のめあて</p> <p>白鷹さんと他の職人を比べて、職人に共通する考え方・生き方を読み取ろう。</p>	
<p>5 白鷹さんの考え方・生き方と久保田五十一さんの資料（資料①）を読み比べる。</p> <p>（1）久保田五十一さんについて知る。</p> <p>（2）資料①の範読を聞く。</p> <p>（3）白鷹さんと資料①の久保田さんに共通する考え方・生き方を書きまとめる。</p> <p>（4）書きまとめたことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人とも長い間たくさんの作品を作っている。 ・ 二人とも名前を残すことはどうでもいいと思っている。 ・ 二人とも自分の作品が残ってほしいと思っている。 <p>6 白鷹さんと久保田さんの共通点と沖永考一さんの資料②を読み比べる。</p> <p>（1）沖永考一さんについて知る。</p> <p>（2）資料②の範読を聞く。</p> <p>（3）白鷹さん・久保田さんに共通していた考え方・生き方と似ているところを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三人ともお金のことは考えていない <p>7 交流して深まった考えを「今日の学習で」として書きまとめる。</p>	<p>○ 写真を提示し、イチロー選手や松井選手などのバットを手がけてきた職人であることを知らせる。</p> <p>○ 「千年の釘にいどむ」で読み取った白鷹さんの職人としての考え方・生き方と共通することを探しながら範読を聞かせるようにする。</p> <p>○ 列指名で考えを出させてから、似ている考えの児童に発表させるようにして話し合いの筋道を作るようにする。</p> <p>○ 宮大工として薬師寺再建に関わった人であり、その後模型職人になったこと、1つの作品を作るのに何年もかけて打ち込んでいる姿を補足説明する。</p> <p>○ 板書をもとに導入時に出させた職人に対する考えと比べて次のような2点で書かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①職人とはどんな考え方・生き方をしている人か。 ②職人やに対して今の自分はどうか。

